

氏 名	今泉裕美子（教授）
こんな研究をしています	・国際関係学（International Studies）の方法論…日本のオリジナルな国際関係研究の歴史（文化や社会も対象）を、第二次世界大戦前の植民政策研究から発展したものについて研究。 ・ミクロネシアと日本との関係史、ミクロネシアの地域社会を、アジア及び太平洋島嶼をめぐる国際関係の中で追究。具体的には、①戦前日本の南洋群島統治政策とそこに暮らす人々との関係（移民、戦時動員、引揚げと、引揚げ後の地域社会史との関係）、②太平洋戦争（南洋群島での総力戦の実態や赤道以南のミクロネシアとの関係）と米軍占領（民間収容所や労役などを通じたアメリカの“民主化”・“文化”との出会い）、③委任統治と戦略的信託統治（委任統治の掲げる「文明化」、信託統治の掲げる「自治」「独立」「平和」「安全」）をミクロネシアから検証、④ミクロネシアの戦災からの「復興」、軍事基地化と脱植民地化との関係、⑤南洋群島帰還者の諸活動・戦後ミクロネシアとの「交流」（沖縄、東京、北海道など日本各地）、⑥旧南洋群島を生きた人びとの植民地・戦争経験の解明、その継承の意義と方法を、ミクロネシアの研究者、教員などと共同で取り組む（代表）。
こんな成果を挙げています	・「太平洋分割のなかの日本の南洋群島統治―委任統治と「島民」の創出」中野聡・安村尚己責任編集、棚橋訓編集協力『岩波講座世界歴史 19 太平洋海域世界～20 世紀』岩波書店、2023 年。 ・「第六部第六章世界の中の沖縄第二節引揚げたウチナーンチュ」（財）沖縄県教育庁文化財課史料編集班編『沖縄県史（各論編第 7 巻現代）』 沖縄県教育委員会、2022 年。 ・「近年の「引揚げ」研究の視点と本書の課題」、「パラオ諸島をめぐる民間人の「引揚げ」」今泉裕美子他編『日本帝国崩壊期「引揚げ」の比較研究―国際関係と地域の視点から』日本経済評論社、2016 年。 ・「太平洋の「地域」形成と日本―日本の南洋群島統治から考える」李成市他編『岩波講座日本歴史第 20 巻（地域論）』岩波書店、2014 年。 ・「南洋群島研究」鴨下重彦他編『矢内原忠雄』東京大学出版会、2011 年。
ほかに、こんなジャンルに関心をもっています	沖縄県史、同県内市史の編纂、執筆を通じて、地域社会・市民にとっての「歴史」、「国際関係」とは何かの追究。歌謡、音楽、演劇、絵画、写真、映画、モノ、その他表現にみる「南洋群島」、「ミクロネシア」。ミクロネシアと戦後日本の「ミクロネシア協定」から始まる外交関係。
こんな授業を行っています	「異文化社会論ⅠA」「異文化社会論ⅠB」のシラバス（年度によって内容が異なるため複数年度）をご覧ください。
学会や社会でこんな活動をしています	・千代田区主催・地球市民講座 2023「グアム・サイパンを知ろう」第 2 回「グアム・サイパンの歴史Ⅰ」（2023 年 11 月 10 日）、第 3 回「グアム・サイパンの歴史Ⅱ」（2023 年 11 月 17 日）。 ・米国議会図書館南洋庁関係史料の整理・目録作成マイクロフィルム化協力。琉球大学図書館「矢内原忠雄文庫」南洋群島関係史料の整理・目録作成、「矢内原忠雄文庫南洋群島関係資料展」 ・ギャラリートーク「赤松俊子の旅した『南洋群島』 原爆の図丸木美術館・企画展「赤松俊子と南洋群島」（2015 年 3 月 28 日）。
私が思う多文化的かつ、インターカルチュラルな人物	北原きよ子さん。1946 年樺太アイヌの両親が第二次世界大戦後に引揚げた余市生まれ、元関東ウタリ会会長。幼い頃から抱いた違和感、疑問、怒り、悲しみ一つひとつを出発点に、自ら調べ、学び、問題の特徴を見極め、異なる文化、階層、アイヌ問題に無自覚・無知の人々に向き合い、アイヌが伝統的な方法とする話し合いを通じて問題に取り組む。アイヌの伝統文化の復元も行う。著作『わが心のカツラの木―滅びゆくアイヌといわれて』（岩波書店、2013 年）をぜひお読み下さい。